

石狩市公立小中学校事務職員第39回(今年度第8回)学校間連携会議議案

2013年1月22日(火)14:00~(市事協研修会終了後)
於:市庁舎402号会議室

1 議長挨拶

2 報告事項

- 12月11日 日刊連携会議103号(ミッション加配と事務職員の仕事)
- 12月27日 冬季研修会(かでの2・7)

3 協議題

- (1)「提言2012」について(その2) ~ 別紙1
- (2)保護者負担調査結果の交流 ~ (別ファイルで送信済み)
- (3)「保護者負担調査」の分析作業について(その2) ~ 別紙

5 実践交流

7 連絡事項

- (1)ブックカバーの調査について。
協議題1に関わって、ブックカバーの取り付けに関する調査を実施します。2010年度実施調査用紙(エクセル)を、少し直したものを送信するので、事務局に返信してください。

1. 教材備品購入費の執行について(案)

提言14	教材備品購入費の執行について
<p>提言内容</p> <p>(1)各学校は、教示備品購入計画の策定に関わって、職員の要望を十分に吸い上げるため、計画に必要な情報提供を積極的に行うなど、丁寧な提案と調整を工夫、実践すること。</p> <p>(2)連携会議は、定期的に各学校の教材備品購入計画に関わる実践を交流するなど、各校のとりくみをサポートすること。</p> <p>(3)教育委員会は、緊急に教材備品が必要になった場合の対応に関わり、考え方や要望の方法について、口頭説明以外の明示の方法を検討すること。</p> <p>2012年6月7日開催の予算要望担当者会議において、出席者から「教材備品購入費の『一部学校配分』について検討するよう市教委に要望していただきたい」との意見がだされました。意見の内容は、年度始めの一回の購入計画では、計画後に必要備品に気づく場合もあること、校内での希望調査に対してなかなか要望が上がってこない現状があること、等の理由から、教材備品費の学校裁量枠を設けてもらいたいといものです。</p> <p>連携会議ではこの意見について、連携会議の場などを通じて交流・検討を行ってきました。</p> <p>1. 第33回連携会議での交流・検討</p> <p>提案者からの主旨説明(冒頭の内容)について、「現場は人によって考えが違いすぎ、何度も意見調整を行うのは困難。年一度の一括だから計画出来るというのが現状」との意見も出されました。</p> <p>2. 第34回連携会議で、八幡小、花川南中の教材備品購入計画とりまとめ方法の交流。</p> <p>ここでの交流は、要望のとりまとめ方というよりも、職員会議への提案までにどのような調整を行っているか、ということが中心になりましたが、「緊急に簿品が必要な状況」とはどういう状況をさすのか、行事等の際に「これこれの備品があればいいものができるのだが・・・」というような事態は緊急といえるのかどうか、という意見もありました。</p> <p>3. 7月3日「新ひだか町学校事務職員研修視察」受け入れに際し、新ひだか町での備品購入計画の実際について資料を提供していただくとともに、市内数校のとりくみ状況について交流しました。</p> <p>4. 8月16日夏季研修会</p> <p>夏季研修会では、さらに多くの学校から備品購入計画の企画・立案についてのとりくみ状況を交流しました。</p> <p>5. 管内各市町村の状況調査</p> <p>これまでの論議を踏まえ、管内各市町村(新篠津を除く)の備品購入費の学校配分方式について電話で聞き取り調査をし(詳細は日刊連携会議100号参照)その結果をもとに教育委員会と意見交流をおこないました。市教委からは、担当者の段階ではあるが、緊急時への対応は、市教委に相談してもらえれば個々詮議するし、そのようにこれまでも案内していること、学校の現状を踏まえて、市教委としても検討の余地はある。財務規則の変更をしなくても対応できる、学校側に立ってルーチンを変更するとすれば、例えば計画書の提出を全後期に分けるなどの方法が考えられるが、その場合の「後期」については、年間教育計画の観点からは査定を厳しくせざるを得ない。そうすると、結果的に前期にほぼ計画をまとめてしまう学校が多くなるのではないかと、前後期要望などの方法を取った場合、市教委として若干作業量は増えるが、許容範囲内ではないかと、などの意見がありました。</p> <p>これまでの論議や交流内容をまとめてみると、緊急時には市教委に相談することによって、対応可能となる場合があること、また、現に個々詮議により購入が可能となった事例があること、計画を立てる側から考えた場合、年度始めに集中的に検討した方が計画も確かなものになる上、業務の効率化も図れること、職員からの要望がなかなか上がってこないという課題については、提案の仕方や資料の提示方法を工夫することで対応が可能であると考えられること、また、なかなか要望が上がってこないという状況そのものを改善することが、学校財政財務活動に求められていること、管内市町の中では、石狩市は教材備品費の執行について「柔軟な対応」ではないと言えるものの、「柔軟な対応」と「あいまいな対応」は紙一重と言えるので)市教委としては「適切な対応」を求めているものと考えられること、などとなります。</p>	

これらのことから、教材備品購入に関わる市内的執行方式については、前後期など複数回に分けた執行方法や、配分予算方式による校長決済購入については、導入するには論議が十分でない判断できます。しかしながら、いわゆる「緊急時の対応」については、市教委から「個々詮議」についてアナウンスがあるとされているものの、「石狩市公立学校事務の手引き」に記載もなく、「緊急時の対応」の意味合いに対する市教委・学校の認識も十分共通理解されているとは言い難い状況があります。

以上のことから、教材備品購入計画・執行に関わっては、提言内容の(1)～(3)を課題として確認し、連携会議等で確認・改善をすすめていく必要があります。

2. 学校図書のブックカバー取り付けについて(案)

提言15 学校著書のブックカバー取り付けについて

提言内容

(1)学校図書の納入に関わり、ブックカバー取り付け料を込みとした購入が可能となるよう、運用を改善すること。

記述に関しては次回連携会議で提案します。

内容の概略

学校図書のブックカバーについては、2010年10月に図書費の執行状況調査と併せて実施(HP白書提言のページ14)。その後、市民図書館との連携で市内2校に新図書管理システムが導入。その2校については、バーコード代とブックカバー代が業者サービスとなっている(らしい)。サービスを受けられない学校は、配分予算でカバーを購入、取り付けはPTAの労務提供や本題に乗せるなど、較差が生じている。これを解消する方法として、ブックカバー取り付け料を込みとした購入ができるよう、運用を改善することを提言する。

なお、コート紙の購入方法についても、消耗品費で購入する学校や、PTA会計で購入している学校と、さまざまあり。再度調査の上提言する。

<別紙3> 「保護者負担調査」の分析作業について(その2)

1. 第38回連携会議で、「保護者負担調査」の分析作業について提案しましたが、提案内容の検討が十分でなく、出席者から以下のような意見が出されました。

- ・「実験実習材料費」の意味するものの押さえが人(又は学校)によって違う可能性があり、データ化の意義が不明確。
- ・「児童生徒一人当たり平均負担額」の算出について、特別支援学級を含めた算出が大変困難。

2. 上記の指摘を踏まえ、調査内容を簡略化するとともに、調査対象の明確化を図り、次のように再提案します。

(1)保護者負担調査の意義(前回提案と同様)

今年度の保護者負担調査については、調査研修グループの協力をいただき、集計作業が終了しています。保護者負担調査については、各校の現状を知ることによって自校の保護者負担軽減などのとりくみに活かすなどの効果はありましたが、「学校財政確立のために活用できる資料をめざす(ひいては保護者負担軽減につながる)」という観点からは、さらにその活用を工夫することが必要となります。活用の工夫の第一歩として、保護者負担経費と公費負担経費の対比表を作成し、各学校の比較をしてみます。例えば、A校で理科の実験費保護者負担全額に対し、公費負担がどの程度か、その割合などをデータ化することで、校内予算編成や保護者負担軽減の参考にできないか検証してみます。

(2)具体的作業(前回提案を一部修正)

「2012年度保護者負担調査集計用紙」(次のページ参照)を使い、「実験・実習教材費」の徴収額を調査します。

児童生徒数は、5月1日現在でも、現時点でも可とします。

算出する額は、2012年度中に納入される予定の額とします。

「2012年度保護者負担調査集計用紙」は、調査時の提出控えがあればそれをお使いください。また、会員ページにも掲載しておきます。

学校配分予算との比較表は事務局で作成します。

(3)報告の方法

下記の集計表に記載するか、同様に内容のわかる任意の様式、又は電話等どのような方法でもいいので、報告してください。1月30日までに事務局へ提出・ご連絡ください。

【学校名 _____】

	特別支援学級以外	特別支援学級	合計
児童生徒数(人数)			
徴収予定総額(金額)			

2012年度保護者負担調査集計用紙

小学校は、この枠内の総額（各学年金額に児童生徒数を乗じた額の合計）

学校名 [<input type="radio"/> 小学校]	備考	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援
(1) 日常の授業・学習に関わるもの								
ワークブック、ドリル、副読本等	内訳が分かる資料を提出してください	360	1,200		1,060	590	590	1,000
市販テスト		1,640	1,680	2,400	2,380	3,200	2,400	
実験・実習材料(小学校)	内訳が分かる資料を提出してください	1,440	1,290	1,124	920	1,350	2,012	3,350
実験・実習材料(中学校:理科)								
実験・実習材料(中学校:美術)								
実験・実習材料(中学校:技家)								
実験・実習材料 (中学校:その他)								
実験・実習材料 (中学校:その他)								
選択教科に係る経費 (中学校:技術)								
選択教科に係る経費 (中学校:家庭)								
選択教科に係る経費 (中学校:美術)								
選択教科に係る経費 (中学校:その他 書写)								
選択教科に係る経費 (中学校:その他)								
その他(予備費)		210	30	574		100	98	50
	合計	3,650	4,200	4,098	4,360	5,240	5,100	4,400

中学校は、この枠内の総額(各学年金額に児童生徒数を乗じた額の合計)

と で特別支援学級の欄に数字が入っているところだけ、特別支援学級単独で総額を算出します。